

コロナ禍の中
3年ぶり

沖縄

平和行進

参加

2022
5.12
/ 15

沖縄本土復帰50年!



東北地方小名浜支部 副部長 渡邊健也

沖縄本土復帰50周年という節目の年に参加できたことを、大変嬉しく誇りに思います。実際に足を運び現地に行かなければ、沖縄の現状や地元住民の思いは感じ取れないと思いました。50年経った今の沖縄にまだまだ基地がある状況で、沖縄県民が願う「基地のない沖縄」には程遠いのが現状です。沖縄から基地が無くならない限り本当の復帰とは言えないと思います。見て感じることの大切さを改めて学び、地元での運動を見つめ直して全国の仲間達と共に行動していきたいです。

四国地本青年部 青年部部长 川田裕一郎

3年ぶりに行われた平和行進で、私が副団長の重責を担うことになりました。副団長を引き受けるにあたり不安な気持ちでしたが、沖縄地元の方々や多くの仲間のもサポートもあって、シュプレヒコールが途切れる事なく、事故もなく無事行進を終えることができました。今回経験した貴重な経験を、四国の青年部員に伝えることはもちろんのこと、青年部運動の発展に繋げなければならないと決意することができました。

戦争は世界にいらない!

全港湾北海道地方本部釧路支部 澁谷佳範

5月12～15日の日程で「2022年沖縄本土復帰5.15沖縄平和行進」に参加させていただきました。私自身沖縄には初めて行きましたが、観光地や南国リゾートなどのイメージを抱いていました。しかし、戦争跡地を巡り現在に至るまでに沢山の人命が失われ、今現在も米軍基地など危険と隣り合わせであることを知りました。改めて、戦争は悲しみしか生まないことに気付かされた大切な機会でした。是非また参加したいと思えます。最後に、受け入れをいただいた沖縄地方本部の皆様、ありがとうございました。





日本海地方直江津支部 田辺雄也

今回、沖縄平和行進に初めて参加してもらいました。今年は沖縄本土復帰50周年という節目と同時に新型コロナウイルスの影響で約3年ぶりの行進でした。世界ではロシアとウクライナで戦争が勃発している中の参加でした。例年とは違った平和行進で複雑な気持ちでの参加でしたが、人類が戦争という選択肢は絶対に間違っていると自分の中で思い、沖縄で肌で感じてきました。こうしてる間にもロシアとウクライナでは罪の無い人々が戦争で亡くなっていると現地沖縄で考えさせられました。貴重な経験させていただき本当にありがとうございました。

関東地方横浜支部青年部長 寶納雅行

講師の古謝厚雄氏の本土復帰しても米兵が残り思った通りの返還ではなかった。日本の憲法が通用しない。アメリカのいいなり。今では目で見なくても戦闘機の音で機種をあてられる様に耳が覚えてしまった事などの話が心に残り、今でも戦争の犠牲者だと思いました。今回の平和行進を通して感じた事は戦争がもたらす悲惨さ、痛みは決して消えない。どんな時も武力による行動は許されない。先の敗戦を教訓に戦争放棄の9条を死守しなければならないと思います。



東海地本青年婦人部名古屋支部 副部長 佐藤洋平

今回沖縄平和行進に初参加し、観光地としての沖縄ではなく戦地だった沖縄を勉強する機会になりました。現地の人たちの悲しみの言葉を聞き、資料館を見て、騒音被害の現状を知って、平和を訴え行進してきました。これは沖縄だけの問題ではなく自身、全国で行っていく活動なのだとして改めて痛感しました。この50周年を機に少しずつでも良くなっていくことを切に願います。

九州地方関門支部 吉高健太

ひめゆりの塔と旧海軍司令部壕の視察がありました。自分が知っていた沖縄の歴史とはかけ離れていて、普通の女子高生が看護要員として戦場に動員され、ガマと呼ばれる洞窟や壕の中に米軍のガス弾攻撃を受けて亡くなったり、自害をして亡くなったことを聞きとても胸が苦しくなりました。どんなことがあっても戦争はしてはいけないのだと改めて痛感させられました。この4日間で知ったこと、感じたことを支部の仲間や家族に伝え、広めていこうと思います。そしてこの沖縄平和行進をしなくていい平和な沖縄になることを強く願っています。とても貴重な体験になりました。

関西地方神戸支部 木村浩暢

第40回5・15沖縄行進に参加して私は、平和運動を通じて、なぜ労働者は活動や運動し続けるのかを学びました。沖縄本土復帰50周年は喜ばしいことだとメディアで取り上げられていますが、本土復帰から50年経った今でも、当時の沖縄県民が望んでいなかった問題が多くあります。基地問題一つを取り上げても、基地があることで雇用が生まれており、基地が無くなれば、その雇用はどう確保するのかといった、簡単に解決できない問題があります。現時点では、解決方法は誰にもわからないが行動を起こすことで、10年後、20年後にその行動が正しかったのかは考えることができ、間違っていたのなら別の方法を探せば良い。目の前の問題に取り組み続ける事では解決方法は見つからないと今回の活動を通して学びました。

